

## リーディングDXスクール事業 【実践事例】

久喜市立青葉小学校

## 【取組内容①】 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した、クラウドの活用

子供の学習シートを共有化することにより、児童の思考の共有を図った。6年生「比例」の学習では、学習内容を活用して紙の枚数を求める活動を行った。実際に紙の重さを測定し、表に記入した。スプレッドシートを活用することで、自動的にグラフ化し、比例の関係を視覚的に捉えることができるようにした。

グラフと表をもとに、紙の枚数を求める計算をジャムボードで行った。各学習活動で使ったアプリをチャットで共有したり、考え方を質問したりすることで、児童が課題を解決することができるようにした。振り返りをチャットで行い、その時間の中での共有を図った。

学習の目標を定め、学習過程を児童が各々で進めることで、表を作り思考することに時間をかける児童や、思考した内容をジャムボードに表現することに時間をかける児童など様々であった。自分自身の納得がいくまで、課題に取り組む事ができ、児童が思考を止めることなく、学習を行う事ができた。

また、学習シートの共有を行うことで、児童同士での質問や学び合いが活発に行われた。紙の重さをもとに考える児童や、紙の厚さをもとに考える児童がおり、児童自身が考えた方法を比較検討することで、より良い方法を導き出すことができた。児童自身が自分で時間配分などの学習過程を考え、その思考を共有していくことで、自分の考えと比較したり、考えを進める補助にしたりするなど、学びが深まっている様子が見られた。

